

アルジャイ石窟の継承寺バンチン・ジョーの調査報告

—「威儀奉行の報告」という写本を中心に—
楊 海英

アルジャイ石窟寺はモンゴル最後の大ハーン、リクダン・ハーンに破壊されたのではなく、カギユ派とゲルク派との争いの結果、全チベット佛教文化圏が少しずつゲルク派色に染まれていくなかで廃れてしまった、という仮説を私は以前に提示した(大野(楊) 2005:56-58; 巴図吉日嘎拉 and 楊 2005:77)。

廃れたアルジャイ石窟寺の継承寺はバンチン・ジョー寺である。言い換えれば、アルジャイ石窟寺の僧侶たちはアルジャイの地を離れて、別のカギユ派の寺院を建立したのである。その別の寺院が黄河の北に位置している。2005年8月27日、私はオトク旗文化局のアルピンブラク局長とパトジャラガル副局長らとバンチン・ジョー寺を訪れた。このバンチン・ジョー寺(写真 1)は内モンゴル自治区臨河市のウラーン・トク¹郷(旧紅旗公社)のディヤンチ・ブリド(Diyanči Büridü)という小さな湖のほとりに建つ。ディヤンチ・ブリドとは「修行者のいる湖」との意だ。地元の漢人たちは湖のことをバンチン・ハイズ(班禅召海子)と呼んでいる(地図 1 参照)。こちらも当然、バンチン・ジョー寺に由来する名称である。

現在のバンチン・ジョー寺で私たちはバルザン(Balzang, 1920-2006, 写真 2)、チョイジジャムソ(Čoyijizmsu, 2005年当時 34歳)の二人の僧に話を聞いた。バルザン師はウラト・モンゴルの出身で、ハラヌート氏族(Qaranuyud obuy)に属する。7歳の時に出家してバンチン・ジョー寺の僧になったという。チョイジジャムソはオルドスのオトク旗出身である。現在のバンチン・ジョー寺には3人の僧しかいない。

若いチョイジジャムソは現在のバンチン・ジョー寺のディルワ・ホトクト(40歳)の弟子を自称している。このディルワ・ホトクトはまだ中国政府の正式の認可を受けておらず、自由な宗教活動ができない状況にいる。ちなみに、アメリカ合衆国のニューヨーク市にももう一人のディルワ・ホトクトがいる(巴図吉日嘎拉 and 楊 2005:36)。

バンチン・ジョー寺のモンゴル語の正式名称はシャジンナイ・ユルールト・スウメ(Šasin-u Irügeltü Süm-e)で、チベット語名はラシミンジョールチョイムプリン(Rasiminjurčoyimpuling)で、漢語名は法裕寺¹だ、とバルザン師ははっきりと記憶している。かつて、最盛期には500人、1950年に中華人民共和国が成立する時点でも、100人前後の僧がいた、とバルザン師は語る。バンチン・ジョー寺は1961年に「宗教は人民を毒害するアヘンだ」との信条を掲げる中国共産党に破壊された。現在の寺は1999年に、ある東北地域の信者の寄付によって再建されたものである。

1 私たちは以前にバンチン・ジョー寺ことシャジンナイ・ユルールト・スウメの漢語名が分からなく、そのモンゴル語名を「祈法寺」と訳したことがあり(巴図吉日嘎拉 and 楊 2005:24)、ここで過去の訳を訂正する。

私たちはバルザン師が書いた「バンチン・ジョーという寺が建設された歴史及び建設年代」（「アルジャイ石窟の歴史」ともいう）という資料²内の内容を詳しく確認した。バルザン師は次のように語る。

ディルワとナルワは子弟関係にあり、二人ともカギユ派の高僧である。二人はチベットからモンゴルのオルドス地域にやってきて、カギユ派の寺院アルジャイ石窟寺を建てた。時はチンギス・ハーンが亡くなった後のことである。師匠ディルワは寺院を弟子のナルワ・バンチンに管理運営権を渡したため、アルジャイ石窟寺は「バンチン・ジョー」と呼ばれていた。バンチンとは、「智者」との意味である。

バンチン・ジョーがアルジャイ石窟にあった時のディルワの名は、ダムバドルジ・ポディサドゥだった。その後、バンチン・ジョー寺は黄河の北側にあるダラト旗の土地に移った。

二世ディルワの名はアワンジムバで、彼がバンチン・ジョー寺を運営していた時にオルドスの6旗の王(ジャサク)はそれぞれ60戸の遊牧民を属民(šabi)として寺に渡した。

以上のようなバルザン師の証言から得られた情報を次のようにまとめられよう。

第一、モンゴル時代のアルジャイ石窟寺とその継承寺のバンチン・ジョー寺はカギユ派の寺院だった。ディルワとナルワ(ナルワ・バンチン)は子弟関係にある、という見方もカギユ派内の法灯の継承に合致する。

第二、二世ディルワ・アワンジムバはオルドス・モンゴルがまだ6旗からなっていた時代の人物だ、という話も以前に紹介した『エルケ・チョルジの出自を上奏する抄本』内の記述(大野(楊) 2005:21; 巴图吉日嘎拉 and 楊 2005:22)と矛盾しない。オルドス・モンゴルが7旗に編成されたのは1731年のことである。

第三、バンチン・ジョー寺は一時、360戸からなる^{属民}を有していた。近世において、モンゴル高原にあったナルバンチン寺領はおよそ400個の属民を統括していた、と第七世ディルワ・ホトクトは回想している(Vreeland 1962:10)。両者はほぼ同規模だったことが分かる。

バンチン・ジョー寺がアルジャイ石窟から移ってきた最初の地はエンケ・トカイだった、と「バンチン・ジョーという寺が建設された歴史及び建設年代」に書いてある。このエンケ・トカイは現在のバヤン・ノール市の四団という地にある。四団とは、「生産建設兵团第四団」の略である³。ここに約166年間存続したが、黄河に近かったことから、氾濫を避け

² 私たちは以前にこの資料をオザルという僧が書いたと表現した(巴图吉日嘎拉 and 楊 2005:33)が、そのミスをここで訂正する。

³ 内モンゴルに駐屯する生産兵团は文化大革命中の1969年5月に、毛沢東の直接指示で結成されたものである。計6師団からなり、第5と6師団はシリングル盟の東西ウジュムチン旗に駐屯する以外、ほかの4個師団はすべてバヤン・ノールから包頭にかけての黄河沿線地域に布陣していた。最盛期には約19万人に達していた(『内蒙古大辞典』編委会 1991:203)。

るために離れざるを得なかった。エンケ・トカイはオルドスのダラト旗の領地だったが、ハンギン旗からの牧人が多かった。彼らはエンケ・トカイ周辺を冬营地として利用していた。エンケ・トカイは後に一時ナイマン・ソールガ(Naiman Sobury-a)、つまり「八つの塔」とも呼ばれるようになった。バンチン・ジョー寺がさらにバヤン・トロガイという地に移った後も、仏塔が残っていたから、そのような名称が冠されていたのである。

バヤン・トロガイに移ったのは、その近くに住む裕福な貴族(tayiji)の強い招請を受けたためだ、とバルザン師は語る。バヤン・トロガイは現在のバンチン・ジョー寺が建っている場所、ディヤンチ・ブリドから少し南のところにある。

ディルワ・ホトクトは清朝時代の乾隆年間にさらにモンゴル高原の西部、後にナルバンチン^{スレニ}寺領として知られるようになった場所へ移る(Vreeland 1962:18-19)。その理由は、カギユ派の教義を広げるためだ、とバルザン師ははっきりと証言した。ディルワ・ホトクトとナルバンチン・ホトクトの二人がナルバンチン^{スレニ}寺領に移動し、日常的にかの地で生活するようになった後も、二人とも引き続き黄河の近くのバンチン・ジョー寺の指導者であり続けた。ディルワ・ホトクトを頂点に、その次がナルバンチン・ホトクトという位階制度に変りはなかった。二人とも普段はハルハ・モンゴルの地、つまりナルバンチン^{スレニ}寺領(あるいは「バンチン寺領」ともいう)に滞在していたが、バンチン・ジョー寺はノヤン・ラマとダー・ラマという二人の高僧に管理運営されていた。ダー・ラマの方はナルバンチン^{スレニ}寺領から転生していた、という。バンチン・ジョー寺からモンゴル高原西部のナルバンチン^{スレニ}寺領まではおよそ3ヶ月の道のりであるが、双方の僧たちは実に頻繁に行き来していた。1950年以前、バンチン・ジョー寺からトゥブデン(Töbden)、ダンゼン(Danzen)といった僧たちが仮面劇チャム(čam)を教えにナルバンチン^{スレニ}寺領に行っていたことをバルザン師は記憶している。この記憶はアメリカに渡った第七世ディルワ・ホトクトの回想(Lattimore and Isono 1982:156)とも完全に一致している。

バルザン師はまた第七世ディルワ・ホトクトがバンチン・ジョー寺にやってきたことを覚えている。それは自分が16歳の時、亥の年のことだったという。背の高いディルワ・ホトクトは10数人の追従者とともに、内モンゴル中部のドウルベト旗からシャンバ(陝壩)のガンジョール寺経由で、陰暦11月6日にバンチン・ジョー寺に来る。一週間滞在してから13日に黄河を南に渡って、オトク旗のシニ・ジョー寺へ向かったという。ディルワ・ホトクトは、当時オルドスに滞在中のパンチェン・ラマに会うためだ、とディルワ・ホトクトは周りの人たちに話していた。

いわゆる「亥の年」は、1935年にあたる。数え年をとるモンゴルにおいて、1920年生まれのバルザン師がいう「16歳の時」も1935年になる。しかし、バルザン師がいう「陰暦11月6日」の時点では、まだ西暦の1934年12月22日にあたる。別の資料では、九世パンチェン・ラマは1934年7月19日にオルドスに入り、9月30日にオトク旗のシニ・ジョー寺に到着し、11月20日まで滞在したとしている(丹珠昂奔 1998:653-654)。このように、バルザン師の記憶と他の資料との間に多少時間的な齟齬はあるものの、ディルワ・ホトク

トがパンチェン・ラマを追おうとしていたことは確かであろう。

バルザン師の情報は、当時のディルワ・ホトクトが内モンゴルの自治運動と深く関わっていたパンチェン・ラマの動向を探る目的でモンゴル人民共和国から「亡命」した、という最近の説をさらに裏付けることができよう。

シニ・ジョー寺はアルジャイ石窟の南約 40 キロメートルのところにある。九世パンチェン・ラマも確かに 1934 年からこの寺を訪れていた(Narasun 2000:95;中国第二歴史档案馆中国藏学研究中心 1992:94)。シニ・ジョー寺に行くためには、必ず途中のアルジャイ石窟を経由しなければならない。こう考えると、第七世ディルワ・ホトクトは 1934 年冬に、彼の古寺、アルジャイ石窟を訪れていたと推定できよう。

バルザン師によると、自らの「パンチン・ジョーという寺が建設された歴史及び建設年代」(「アルジャイ石窟の歴史」)はパンチン・ジョー寺に古くから伝わるさまざまな史料を駆使して書いたものだ、という。しかし、史料の大半は文化大革命中に共産党に燃やされた。私たちはバルザン師から「威儀奉行の報告」(*Gebküi-yin Ayildqa*)という写本のゼロックス・コピーをもらった。法会の最後に、威儀奉行(*gebküi*)から施主たちに法事が無事完了したことを報告する内容だという。パンチン・ジョー寺において、経典はすべてチベット語で読経されていたのに対し、この「威儀奉行の報告」のみがモンゴル語で唱えられていた、という。チベット語を解さない、一般の施主たちへのサービスであろう。

写本は万年筆で書いてあり、一ページに 14~15 行の文字がある。元来、二つ折りの紙からなっていたもので、左端にモンゴル数字によるページ・ナンバーがあった。現状では右端にアラビア数字のページ・ナンバーがあり、計 4 枚 8 ページである。

テキストの転写と試訳

1

Om sayin amuyulang

あつ、吉祥

tang boltuyai

たれ!

oyturyui sačayu olan

虚空に満ちる衆

amitan-i enereküi-ber masi

生を慈しむために、大いに

tayalaju. olan toyalasi

愛そう。多くの、教え

ügüi yurban a se-yin

きれぬ三

yalab-tur qoyar čiyulyan-i

劫に二資糧を

sayidur tegüsgejü.

大いに集積しよう。

onča yurban mingyan sambuduqui-

特別の三千の閻浮提

yin orun-a. itegel boluyči-

の域に、信条たる者

yin küi degedü Šayjin

の、頂点たる釈迦

qayan-a orui-bar mörgümüi.

ハーンに叩頭しよう。

ayidisčilan soyurq-a!

恐れたれ!

nom-un qubçasu ile šar-a-un

法衣が明瞭に黄色の

duvsa-yi bariyči bey-e tei.

持時輪の形をし、

2

nom-un čoyča naiman tümen

法蘊は八万

dörben mingyan⁴ dabyuruyči-yin

四千の二重の者たる

jarliy tai. nom бүкүн-i

法令を持つ。法の真髓を

ayuyad yambarčilan ayiladtaqui-

ことごとく、いかにして説くかを

yin sedkeil tei. nom-un

心得ている。法

qayan boyda Čüngquu-a-du

王たる聖ツォンカパに

bisiren mörgümüi :

⁴ 大正大学に伝わるモンゴル語の『モンゴル仏教史』には naiman tümen dörben mingyan nom-un čoyča とある。窪田らは「八万四千法蘊」と訳している(窪田 2006 :26-27)。

帰依して拝もう。

ayidisčilan soyurq-a!

恐れたれ!

masi čayan ayidistu

真白き、恐れを持つ

časutu ayulan-ača egüdusen

雪山から生成し、

masi ariyun delgerenggüi

浄土に弘通した

nom-un rasiyan-iyar mayad

法の甘露にて衆

olan amitan-u gegere!

生の光明

i qangyan tedkügči.

を提供する者たる

3

manlai degedü vačir dar-a

上部の金剛度母

lam-a ekilen ende quraysan

師はじめ、ここにて法会に参加した

olan yutuytu-yin quvaray-

大勢のホトクと僧侶たち

un ölmüi-yin altan toyosu-

の、御足の黄金の埃

yi ayiladqaqu ayiladqal

に上奏する奏文は

anu . erkim öglig-ün ejin

次のとおりである。尊敬する施主の

Ke Tse Mu. qar-a šar-a

ケ・ツ・ムは、僧俗と

aq-a degüü ayimay sadun-

兄弟一族

bar. čing süsüg-ün egüden-

から、信心の門

eče yurban bey-e-yin sitügen-

から三身の根本

dü. jula nindar mandul

に、灯明と絹

qaday-i ergübei:

布を献上した。

Bančin Naruu-a-yin

バンチン・ナルワの、

gegegen tan-du jula nindar

輝かしい師に灯明と絹

4

mandul qaday-i ergübei: jarliy-iyar

布を献上しよう。法令にて

ergümjilegsen samada

冊封された禪定の

baysi Diluu-a

師たる、ディルワ・

qambu-yin gegegen baysi

ハムブの輝かしい師

tan-dur. jula nindar

に、灯明と絹

mandul qaday-i ergübei:

布を献上しよう。

šajin-i geyigülügči bandida

仏法を弘通せしめる師、パンディダ・

noyan qambu-yin gegegen

ノヤンの輝かしい

baysi tan-du jula nindar

師に灯明と絹

mandul qaday-i ergübei:

布を献上しよう。

šayšabodi diyanuu gün

戒律と禪について深い

onoltu šabarang. da lam-a-yin

分別を持つ活佛と、ダー・ラマの

gegegen baysi tan·du

輝かしい師に

jula nindar mandul qaday·i

灯明と絹布を

5

ergübei. Ayvan Ayirimba

献上しよう。アワン・アイリムバ・

Sürbe lam·a ekilen neyidem

スウルベ・ラマはじめ、あらゆる

čorji nar·tur. tus tus

法王たちに、おのおの

mandal qaday jigde ergübei:

絹布を等しく献上しよう。

olan tümen quvaray·un gegegen tan·dur manja

衆生と輝かしい僧侶たちにお茶⁵

kiged jigde. qaday selte·

と、等しく絹布

yi ergübei: ene metü

を献上しよう。かくの如き

üiledtügšen buyan·iyar

おこなった功德に

ekilen. burqan·u šajin

より、仏法が

örnin delbarerijü. quvaray

広がり、僧侶とその

šabinar·un nomlan bötügeküi

属民たちが説法して成就せしめる

üiles. šajin·u üile·dür

業と、仏事が

ulam ulam·iyar delgereged.

ますます広がるように。

öljei tü öglic·ün ejin·ü

吉祥たる施主たちに

6

⁵ manja: 第七世ディルワ・ホトクは、マンジャとは乳やバター、チーズなどを使用して作った濃厚なお茶である、と解釈している(Vreeland 1962:28)。

yarsilduqui-yin sayad

つきまとう邪魔と

čidgür jibyulang amur

悪魔の苦しみが平和になる

layad. jokilduqu-yin

よう。相応の

nasu buyan. čoy učiral

寿命と福德、吉祥と因縁、

esi onol. erdem. ene ba

教法と知識、今生と

qoyidu-yin sayin čiyulyan

来世の僧伽が

simdal ügüi öbesüben

争うことなく自ずと

bötüged. törül tutum

生成されるように。親族

bügün-dü. sudur tarni-

一同が、経典とタラニ

yin šajin luy-a qayaçal

の仏法と離れること

ügüi. umar-a jüg šambal-

ないように。北方シャムバラ

un orun-a yalab-un balyasun-

の域に、劫の城

dur törüjü. itegel ayibida

に生成し、信条堅き

Bančin Erdeni-yin gegegen.

バンチン・エルデニの金身が

7

qayan bolqu-yin

ハーンとして

manduqu ene üyes-tü.

光臨されたこの時期に⁶、

erdeni metü nom-un

⁶ このテキストが書かれた年代は不詳である。そのため、ここではどのバンチン・エルデニを指しているかも不明である。

宝珠の如き法

qayan bolju. yal sayra-

王となり、ガル・サグラ

yin qota mandul-dur

の壇城に

oruyad. ayibisiy-i

入り、灌頂を

abuyad. tersügüd-ün

いただき、異教徒たちの

omug-i uçiral ügüi

勢いを容赦なく

daruju. abi nasutu-yin

抑えよう。アビ・ナストの

orun-dur bayatud ba

域に英雄たちと

aginas kögjim kiged

アカニスタ(天の)楽器と

şikür duvasa. takil-un

傘蓋と時輪、供養の

egülen-lüge selte kiged

類とともに、

bum yoltai-yin nökül-

十万のグルトの友

lüge qamtu morilaju.

とともに出発し、

8

tegüs jiryalang-un

受用

bey-e-ber sayadaqu-yin

身にて現れる

çay-tur. bida ba bugün

時に、われわれとすべて(の人々)が

qayaçal ügüi qamtu dayaju

別れることなくともに追隨し、

dürüsü qoyosun ilayal

無形にして分別

ügüi maqabud-un yutuy-i

なく界の福祿を

iletegeged tabun mayadul-

成就させよう。五決定

i tegüskegsen vaçir

を成就させた金剛

dar-a-yin yutuy-i

度母の福祿を

türgen olqu-yin

迅速に獲得する

siltayan-dur joriju.

事に因んで、

ayilad. ayilad.

奏上しよう。奏上しよう。

ayilad!

奏上しよう。

以上のようなテキストから次のような要点を読み取ることができよう。

第一、もっとも有力な施主の名にケ・ツ・ムという人物を挙げている。これはバンチン・ジョー寺が1991年に再建された時に寄付金を献上した人物の一人だそう。施主の名は寺の現状と関わる人物の名前が列されるのに対し、テキストそのものの文章は昔から変わらない、とバルザン師は語っていた。つまり、この「威儀奉行の報告」というテキスト内の基本的な文章は古くから伝わるものだとして理解しているものである。

第二、テキストのなかにはディルワ・ホトクトを「法令にて冊封された禅定の師」と表現している。これはおそらくディルワ・ホトクトが清朝皇帝より「エルケ・チョルジ」との称号を与えられた歴史を反映しているのであろう。このほかにまたバンチン・ナルワ、パンディダ・ノヤン、ダー・ラマらバンチン・ジョー寺の有力者たちの名が挙げられている。

若い僧チョイジジャムソは現在、モンゴル高原にあったナルバンチン寺領や第七世ディルワ・ホトクトに関する資料を系統的に翻訳している、と話していた。近いうちに更に新しい資料が公開されることを期待したい。

注記:本研究は、財団法人 トヨタ財団の2005年度研究助成、特定課題「アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題」の一つ、「シルクロード草原の道における佛教遺跡(石窟)出土モンゴル語古文書の保存と解題」(2005年11月1日～2006年10月31日)の成果である。記して感謝したい。

参考文献

巴圖吉日嘎拉 楊海英

2005 『阿爾寨石窟—成吉思汗的佛教紀念堂興衰史』風響社。

丹珠昂奔

1998 『歷輩達賴喇嘛与班禪額爾德尼年譜』中央民族大学出版社。

窪田新一(監修)

2006 『『モンゴル佛教史』研究』(二) 大正大学総合佛教研究所・モンゴル佛典研究会 訳
注 ノンブル社。

『内蒙古大辞典』編委会

1991 『内蒙古大辞典』内蒙古人民出版社。

大野旭(楊海英)

2005 『アルジャイ石窟1号窟出土モンゴル語古文書に関する歴史人類学的研究』(科研報
告書 課題番号:15520514)。

中国第二歴史档案館 中国藏学研究中心

1992 『九世班禪内地活動及返藏受阻档案選編』中国藏学出版社。

Lattimore, Owen and Isono Fujiko

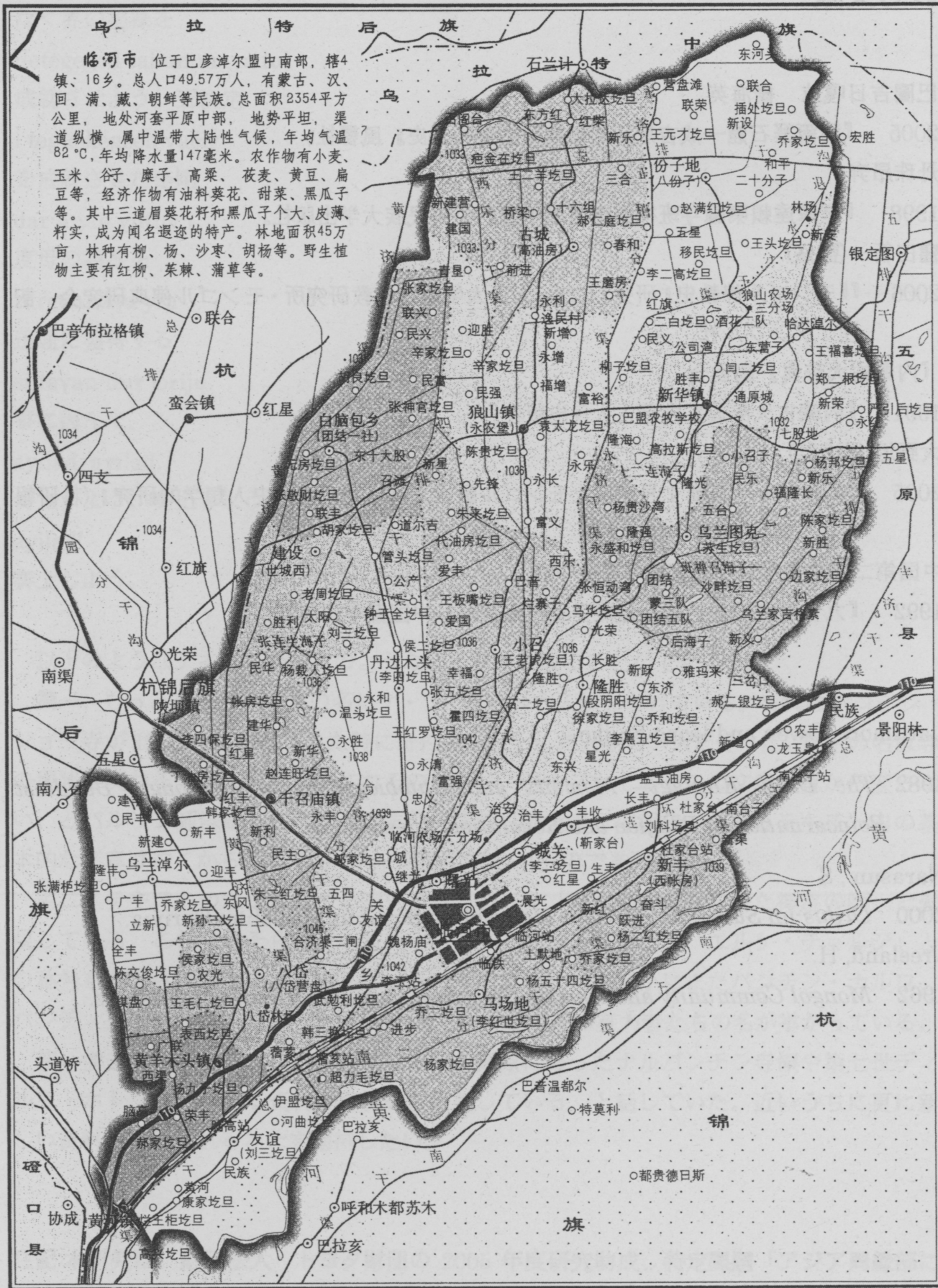
1982 *The Diluv Khutagt— Memoirs and Autobiography of a Mongol Buddhist
Reincarnation in Religion and Revolution.* Wiesbaden.

Narasun, S

2000 *Ordus-un Süm-e Keyid. Öbür Mongyol-un Soyul-un Keblel-ün Qoriy-a.*

Vreeland, H.

1962 *Mongol Community and Kinship Structure.* Greenwood Press, Publishers.



地圖1 現代内モンゴル自治区の臨河市
 (中国地圖出版社『内蒙古自治区地圖冊』2002年より)



写真1 バンチン・ジョー寺の内部

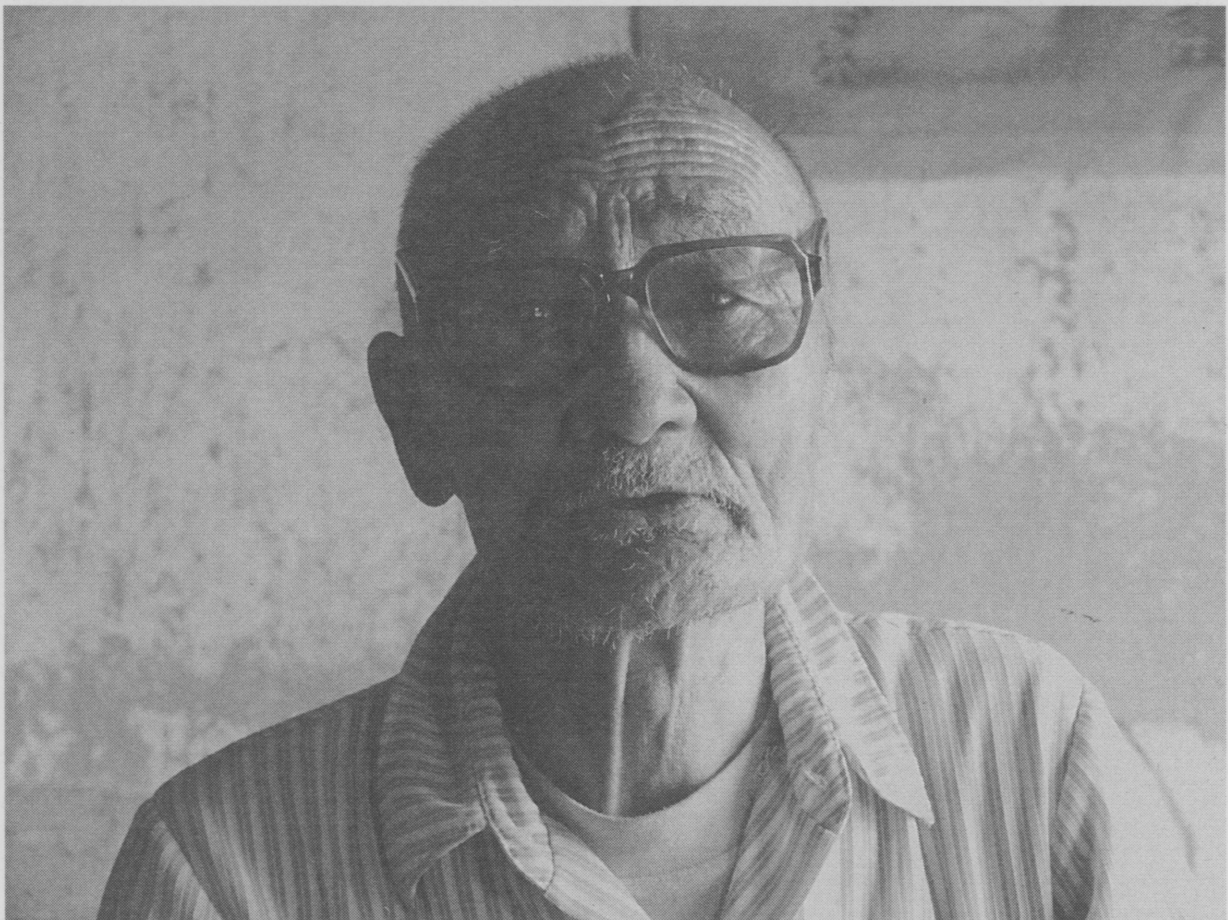


写真2 バンチン・ジョーの僧バルザン師

